

大学生との交流機会を通じた地域のまちづくり

大田市温泉津まちづくりセンター

1 温泉津まちづくりセンターの概要

温泉津まちづくりセンターが抱えるエリアは、大田市温泉津町の中心部に位置しており、温泉及び世界遺産の指定区域を含み、交流人口の拡大と少子高齢化による人口減少に歯止めをかけることが、地域の大きな課題と捉えている。当まちづくりセンターは、平成21年度に旧温泉津公民館が衣替えした形でスタートし、公民館時代に実施していた社会教育事業と定住・交流人口の拡大を目指したまちづくりを通じて地域の抱える課題の解決に取り組んでいる。

2 事業の概要

(1) はじめに

- ①実証事業名 大学生との交流機会を通じた地域のまちづくりの推進
- ②実証事業のテーマ 大学生との交流機会を通じた地域のまちづくりの推進・定住
交流人口・拡大・雇用創出と伝統文化の保存継承
- ③実証事業のねらい

世界遺産登録5周年を迎える温泉津の資源を線又は面として観光戦略を展開すると同時に宿泊滞在者の満足度を高めるため夜の時間帯を活かした町の魅力度アップ・賑わい創出を目的とした実証事業を展開し、交流人口の拡大・雇用機会の創出をもたらすとともに過疎化、高齢化に歯止めをかけ、疲弊する温泉津地域の活性化を図る。

また、大学生を巻き込んだ交流機会を通して外部の目線を取り入れて地域資源の再発見、再評価、文化の保存伝承を進めることにより、町の一体感を醸成するとともに、併せて地区内の公共事業の推進等生活に関する様々な課題を整理し、自分たちの地域に誇りと自信をもち、誰もが住んで良かったと思えるまちづくりを推進する。

(2) 具体的な取り組み

①学生の滞在拠点となる旧温泉津小学校の環境整備

学生の温泉津滞在の拠点として旧温泉津小学校を利用することになったので滞中に必要な電気製品等を購入した。(洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、炊飯器、ネット用品)

②学生と地元社中の夜神楽共演による公演の開催

地区内温泉街の神社の境内を舞台として宿泊者、周辺住民等を対象として、8月



夜神楽風景 (大蛇)

9日から11日まで午後8時から10時まで大学生と地元神楽社中「温泉津舞子連中」等の夜神楽共演を開催した。

また、8月13日には午後5時から10時まで、福光海岸で海神楽を開催し、多くの観光客や見物人を魅了した。更に、1月3日には新年の門出をお祝いし、より良い年になるよう午後5時から10時まで、温泉津まちづくりセンターで「新春神楽」を開催した。

③竹灯籠による町並みのライトアップ

地区内は、国の重要伝統的建造物群保存地区の指定、また沖泊を含めた一帯は世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の拠点地域であり、竹灯籠と夜神楽の組み合わせによる幻想的な町並みのライトアップを通じて世界遺産の保全と活用の推進に努めた。竹灯籠の配置は、港湾部から約1km続く町並みに掛けて夜神楽公演開催時に学生とともに1,000本程度を設置した。竹灯籠には地区内に繁茂する竹を活用することとし、住民一体となって伐採することにより竹害を抑え環境保全に役立てるよう考慮した。また、夜神楽公演の際には神社後背地の山林傾斜地に旧本殿が現存しており、これをライトアップすることにより一層、夜の時間帯の魅力が高まり、地域資源の発見と再評価に繋がった。



竹の伐採



龍御前神社前の竹灯籠

④神楽体験、やきもの体験などのワークショップの開設

公演予定の夜神楽を通じて宿泊者への神楽体験教室や伐採した竹を生かした灯籠を製作するワークショップ等を開設することにより、宿泊者、観光客の満足度を高め、地域の資源を再評価した。しかし、温泉津焼きの窯元ややきもの里を活かした観光客等への体験教室は開催できなかったため、来年度の取り組みとしたい。

⑤学生の視点による観光客のオプションツアー（観光ルート化）の企画実施

豊富な観光資源を線又は面として観光戦略を展開することを目標に、とりわけ海、石見銀の積出港として栄えた沖泊の利活用、温泉津焼き、福光石採掘現場等及び地域外では石見銀山や三瓶山、アクアス、有福温泉等を有機的に繋ぐなど学生の視点・感覚を導入して観光客のオプションツアーの企画やルート化を進める計画であるが、今年度はまずは地域資源を観光客に解かり易く伝え、温泉津の町の町歩きを促すための観光マップの企画・検討を行い、次年度のマップ作成に結びつけたい。

⑥空き店舗を活用した学生のギャラリー開設による温泉街の賑わい創出

空き店舗を活用した学生のギャラリー開設により一時的に温泉街の賑わい創出に努めた。京都造形芸術大学は、芸術分野における総合的な大学であり、学生が創作した作品はもとより、地域の資源でもある温泉津焼きや福光石、ガラス製品など地域産品も展示即売を行った。

3 事業の成果と課題

- (1) 学生は、滞在中は自炊なので電気製品の整備により調理に要する時間や洗濯時間が短縮することが可能となり、その分、本来の活動に多くの時間を費やすことができた。しかし、不足する電気製品の本事業による整備に併せて、下水道施設整備やシャワー室の増設整備等、大田市による更なる環境整備に努めていきたい。
- (2) 神楽に関する活動は、概ね計画通りに実施することができ、地元や観光客に好評であった。特に、夏に実施した小・中学生対象の神楽体験では、人数は少なかったものの、神楽に興味のある子どもに本物の衣装や面をつけて舞台体験をしてもらい、海神楽のプレビュー公演で発表した。今後は更に多くの子どもに体験してもらって、後継者の育成を図りたい。
- (3) 地区内に繁茂する竹を伐採して加工し、約1,000本の竹灯籠を作成した。温泉街住民への竹灯籠の配布は地元と学生とで協力して実施し、8月11日から3日間午後8時から10時まで、温泉街と、夜神楽会場の神社後背地の旧本殿をライトアップした。竹灯籠の点灯・消灯及び使用後の保存は住民が行い、温泉街の賑わい創出に向けて住民の心を一つにすることを試みた。次年度は、竹灯籠の数を増やし、石見銀山遺跡の世界遺産登録5周年の市民の気運醸成に向けて対象範囲の拡大を図り、地域環境や景観の保全活動の充実と住民の心を一つにした観光客の受け入れ態勢の整備に努めたい。
- (4) 神楽体験や竹灯籠作りは、PR不足もあり参加者数が少なく、やきもの体験も実施できなかったため、次年度は小・中学校及びやきもの館の協力を得て、市民や観光客に広く呼びかけ、充実した内容で開催したい。
- (5) 温泉津には観光協会等が作成したまち歩き用の観光マップがないので、本事業を利用して、学生の視点・感覚を取り入れたマップ作成を計画しており、12月29日に地元関係者と意見交換会を実施した。ここで出された意見を元に外部からの視点を取り入れて原案を作成し、来年度早々に印刷できるよう準備している。京都から何回も来町することは出来ないため、連絡を密にとり良いものに仕上げたい。
- (6) 学生の温泉津での滞在は年に20日程度なので、温泉津で作成したものの販売には自ずと制限があるので、キャンパスで制作したものを展示・販売するギャラリーとして空き家や空き店舗を利用することを考えていきたい。

4 今後の方向性

当温泉津地区は、古事記、日本書紀、出雲国神話と不可分な島根の伝統文化である「神楽」の保存伝承に努めている。このような中、近年、京都造形芸術大学との間で「神楽」を題材の一つにした地域の活性化を目的に交流事業「温泉津プロジェクト」(年間の学生参加数延約50名)に取り組んできた。伝統的な地域であるが故に今尚

残る古い慣習や考え方に、外部からの大学生の新たな視点・斬新な感覚を採り入れ地域振興を模索している。現段階では当該地域の豊かな資源の一つでもある「海」を舞台とした「海神楽」を開催しているところであるが、今後は、大学側の使命である社会貢献、地域貢献、地域資源の活用等の要請に基づき、点在する資源の線又は面として観光戦略の展開の必要性から、具体的にはバスの観光ルート化やマップの整備、ガイドの養成、看板の整備、有料施設の共通券発行等を通じて温泉や海、石見銀の積出港として栄えた沖泊の活用、温泉津焼き、福光石採掘現場等及び地域外では石見銀山や三瓶山、アクアス、有福温泉等を有機的に繋ぐことが求められる。また、宿泊滞在者の満足度向上のため、夜の時間帯を有効活用した夜神楽と竹灯籠の組み合わせでライトアップの演出により幻想的な雰囲気を醸し出す取り組みを学生と地域住民の協働により実現を図りたい。更に温泉街に散在する空き家等を利活用した学生ギャラリーの開設など賑わい創出を目的とした事業を展開し、過疎高齢化が著しく、疲弊する温泉津地域の活性化を図るきっかけづくりとしたい。加えて次年度は、石見銀山の初代奉行大久保長安が死没後400年を迎える年である。彼は、江戸初期において温泉津地域に大きな功績を残した人物であるので、こうした歴史資源を活かした事業も、地域資源を見直し再評価に繋がることから、新たに採り入れた事業展開を進めたい。



チラシ (大田市全戸配付)



学生と地元住民の協議風景